



平成 21 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名 トーヨーカネツ株式会社
代表者名 取締役社長 水上 健
(コード番号 6369 東証 第一部)

「グループ中期経営計画(2009～2011年度)策定に関するお知らせ」

弊社は、本日開催の取締役会において、「グループ中期経営計画(2009～2011年度)」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

弊社グループは、本計画の完遂に向けグループ一丸となって取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

尚、グループ中期経営計画の詳細につきましては、別紙を御参照下さい。

〈本件に関するお問い合わせ先〉
トーヨーカネツ株式会社
経営管理部
03-5857-3333

グループ中期経営計画（2009～2011年度）

代表取締役社長 水上 健

2009年5月14日

 **トヨカネツ** 株式会社

目次

I. 会社概要

1. 当社のご紹介	4
2. 長期業績推移	5
3. 主力事業のご紹介	6

II. 中期経営計画

1. 中期経営計画策定の背景	11
2. 中期経営計画の方針	12
3. 機械・プラント事業計画	13
4. 物流システム事業計画	16
5. 連結業績目標	19
6. 配当政策等	20

I. 会社概要

1. 当社のご紹介

◆会社概要

Corporate Information

商号：トヨーカネツ株式会社
設立：1941年(昭和16年)5月16日
資本金：18,580百万円(2009年3月31日現在)
従業員数：201名(連結618名)(2009年3月31日現在)

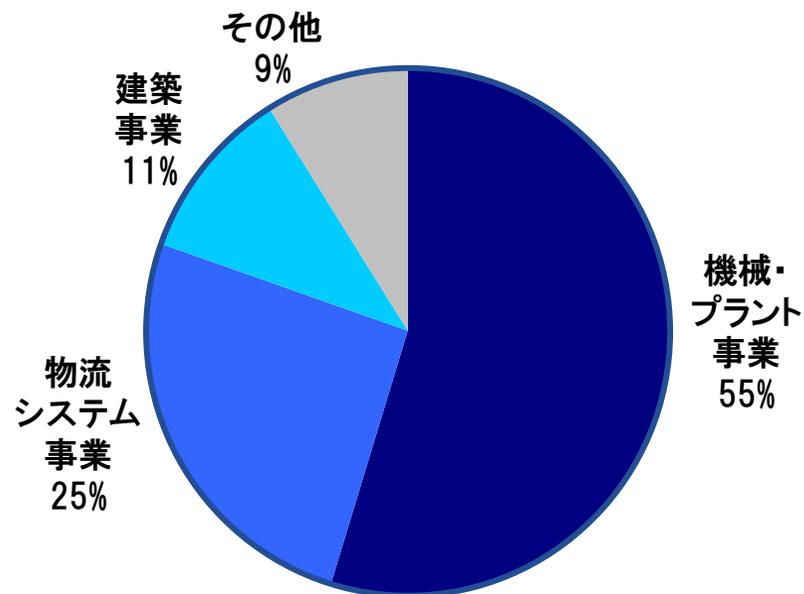
◆トヨーカネツグループ

Toyo Kanetsu Group

機械・プラント事業：トヨーカネツ(株)
：トヨーカネツインドネシア社
：トヨーカネツシンガポール社 他
物流システム事業：トヨーカネツソリューションズ(株)
：ケイ・テクノ(株)
：トヨーカネツマレーシア社
建築事業、その他：トヨーカネツ(株) 他

◆セグメント別売上比率

Segment Data



2009年3月期(連結)

2. 長期業績推移

◆トピックス

Topics

■ ~96/3期

- ・LNG/LPGタンク案件や大型物流システム案件等で業績は安定。

■ 97/3期～ 03/3期

- ・景気低迷に伴う主力事業の不振により7期中5期が営業赤字。
- ・02/3期には収益のV字回復を目指し負の遺産を一掃(142億円の特別損失を計上)。

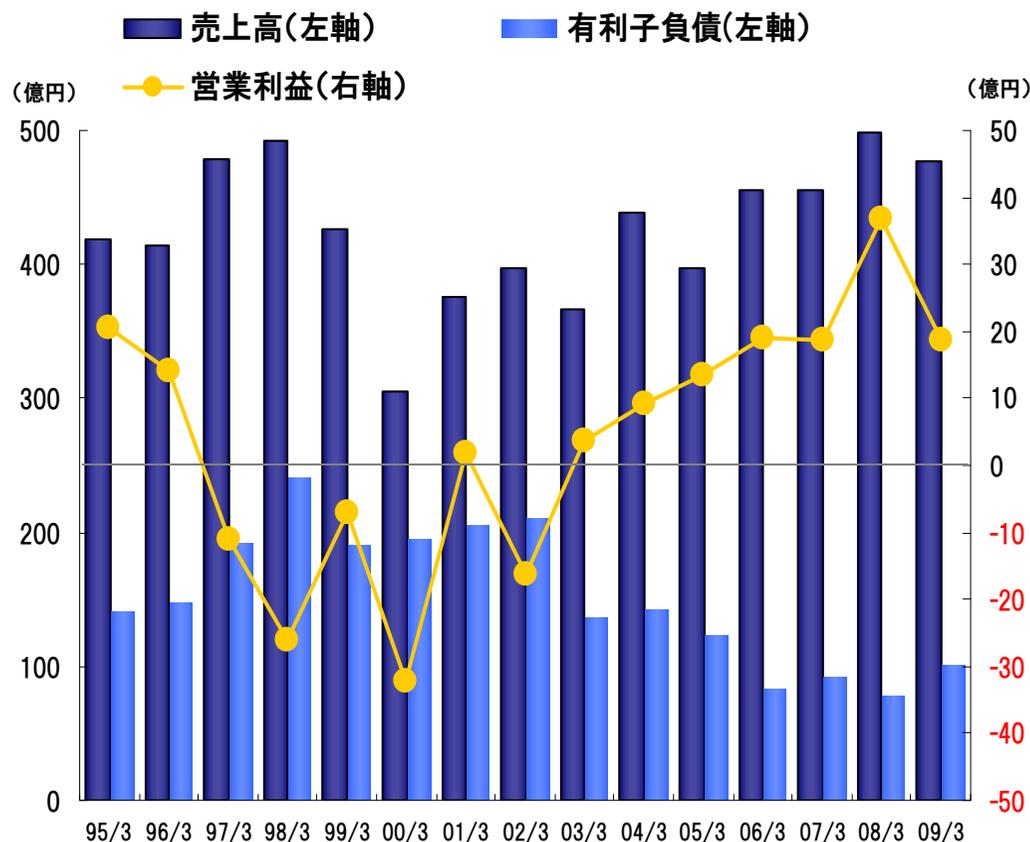
■ 04/3期～

- ・主力事業の改善により収益回復傾向が顕著。
(06/3期 9期ぶりに復配)
(08/3期 過去最高水準の営業利益を達成)
- ・有利子負債を大幅に圧縮。

ピーク(98/3期) ボトム(08/3期)
240億円 ⇒ 78億円

◆長期業績推移

Financial Highlight



3-1. 主力事業のご紹介：機械・プラント事業

◆機械・プラント事業

【事業概要】

機械・プラント事業は1950年に全溶接石油タンクの建設を開始し、石油タンク、球形タンク、LPGタンク、LNGタンク等、現在までに国内外に約5,300基のタンクを納めてまいりました。
タンク専門メーカーとして**日本で第1位、世界で第2位。**



極低温LNGタンク

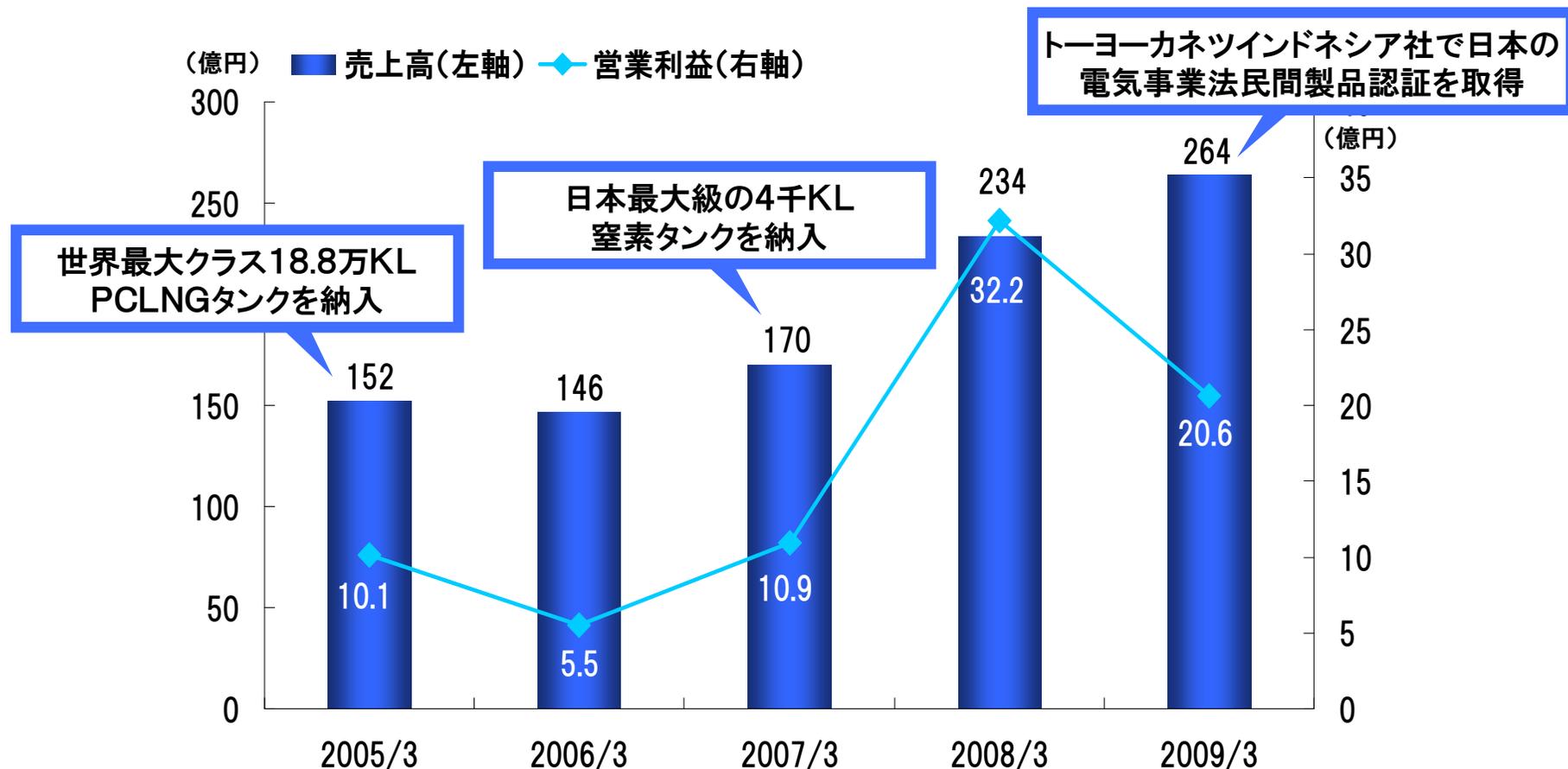


低温LPGタンク

3-2. 主力事業のご紹介：機械・プラント事業

◆機械・プラント事業

【売上高・営業利益推移】



3-3. 主力事業のご紹介：物流システム事業

◆物流システム事業：

【事業概要】

物流システム事業は1953年以来、コンベヤを手始めにコンピュータシステムを駆使した物流センター設備を納め、特に生協個配センター、空港手荷物搬送設備においては圧倒的なシェアを獲得してまいりました。



次世代集品システム

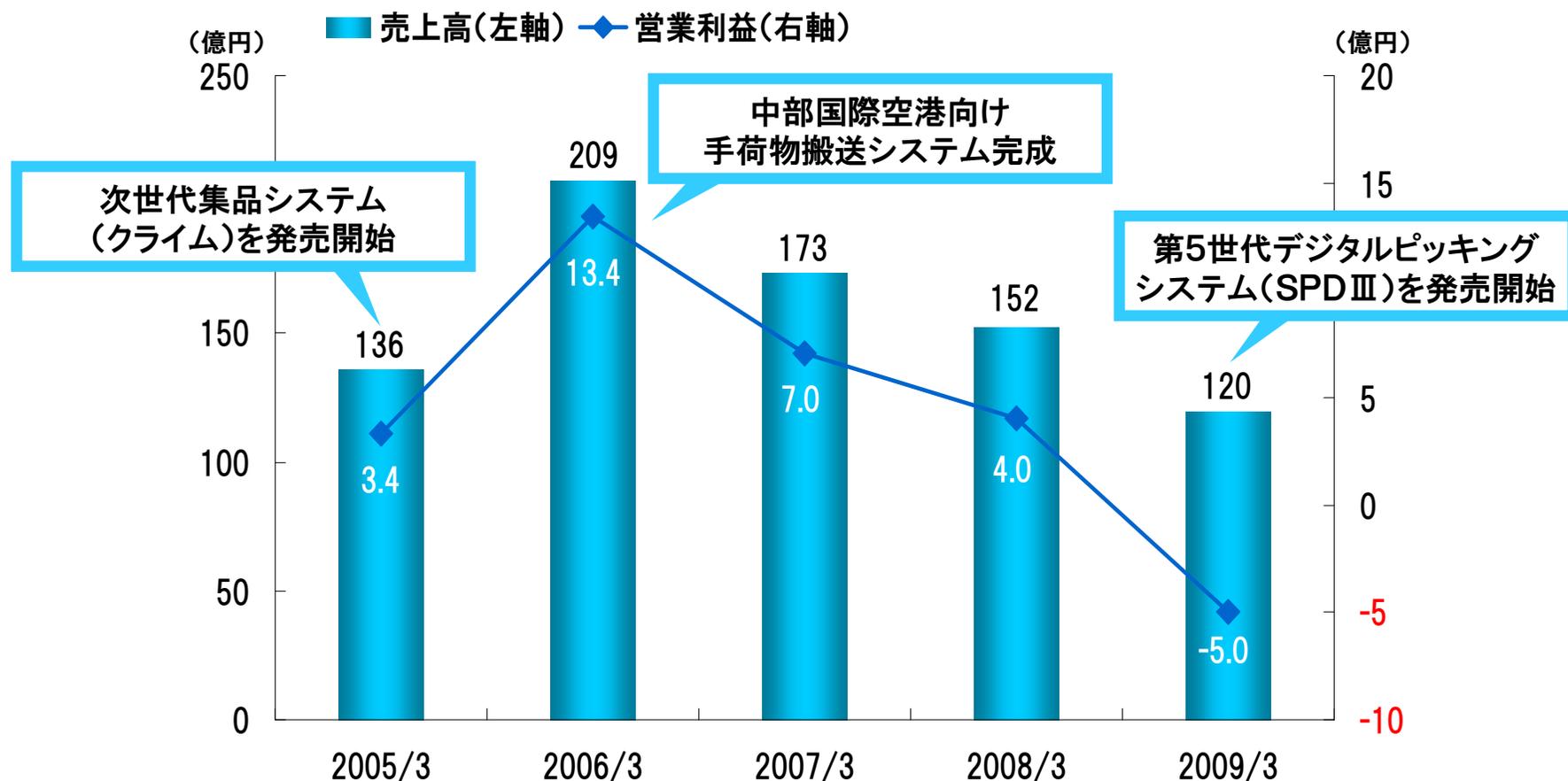


空港手荷物搬送設備

3-4. 主力事業のご紹介：物流システム事業

◆物流システム事業：

【売上高・営業利益推移】



II. 中期経営計画

1. 中期経営計画策定の背景

中期経営計画策定の背景

Mid-term Plan

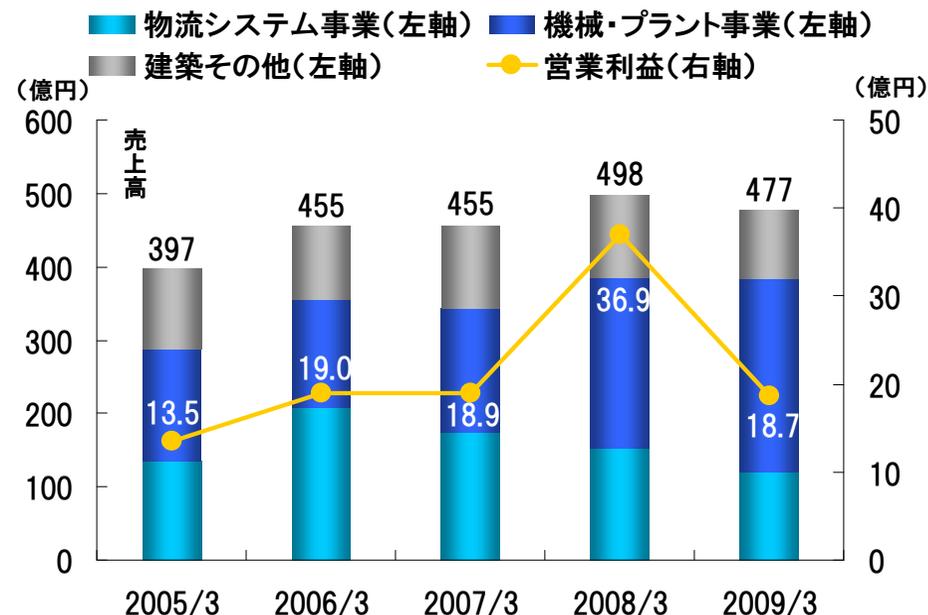
【2008/3期】

機械・プラント事業の好調により、
営業利益は過去最高水準を達成。

【2009/3期】

機械・プラント事業の好採算案件の一巡、
物流システム事業の不振により、
営業利益は半減。

◆業績推移



2. 中期経営計画の方針

グループ経営ビジョン

優れた技術、製品、サービスを裏づけとして
持続的に成長・発展するグループ

中期経営計画の方針

— 磐石な基盤の構築に向けて —

機械・プラント事業

安定的な収益の確保

物流システム事業

事業の再生と基盤の確立

5年後の到達目標

機械・プラント事業

グローバルトップの
競争力と収益性

物流システム事業

トップレベルの
収益性と成長性

3-1. 機械・プラント事業計画

事業環境

■ 海外

- ・世界経済の減速や原油価格の下落に拘わらず、クリーンエネルギーとしてのLNG需要は増加。

■ 国内新設

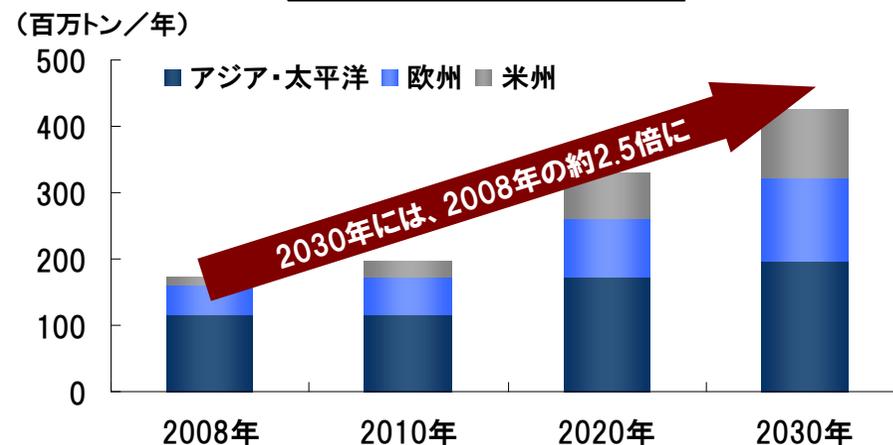
- ・CO₂削減対策として計画された多くのLNGタンクが建設段階に入り、今後の新設計画は平常レベルへ。

■ 国内補修

- ・消防法改正に伴う、石油タンクの浮屋根改造工事が安定的に発生。

市場動向

世界のLNG需要展望

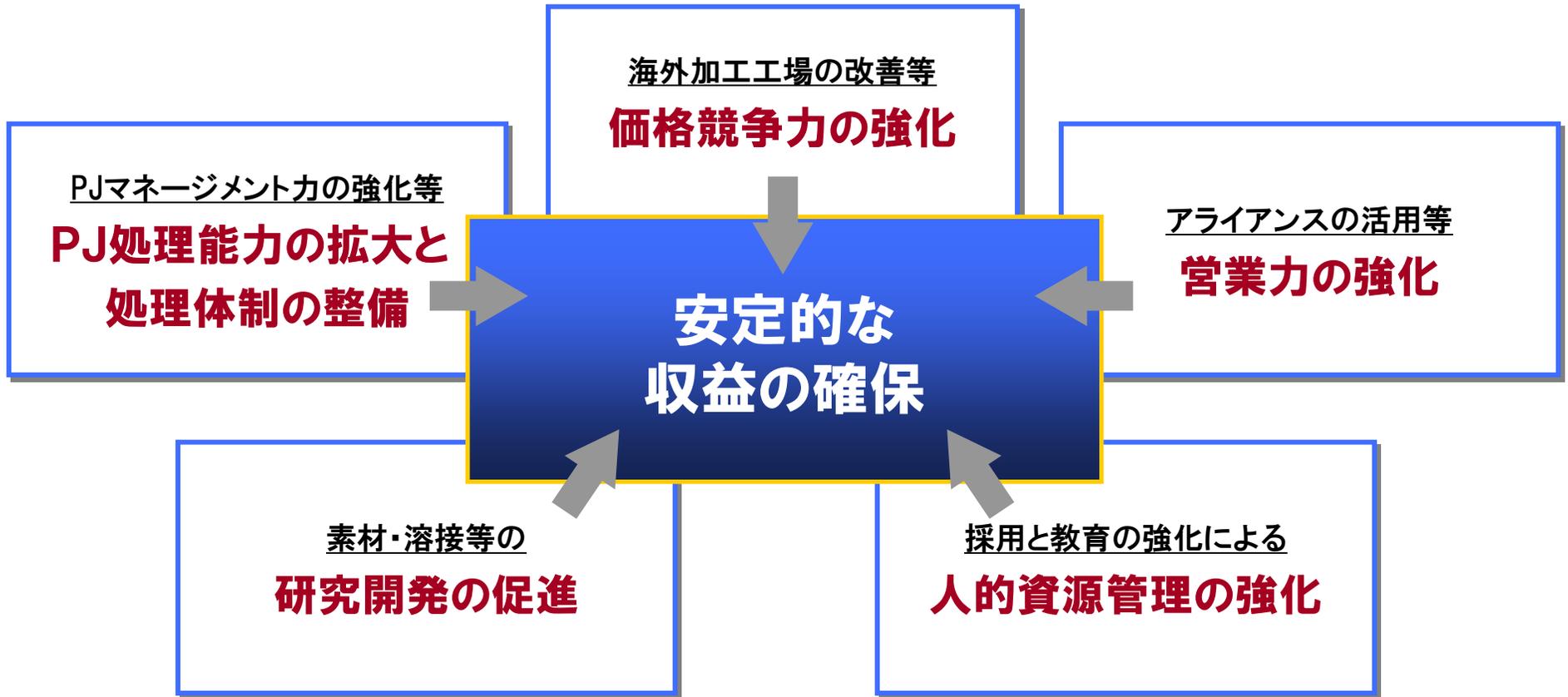


資料出所:(財)日本エネルギー経済研究所

LNG及び補修案件は旺盛だが、競争が激化している。

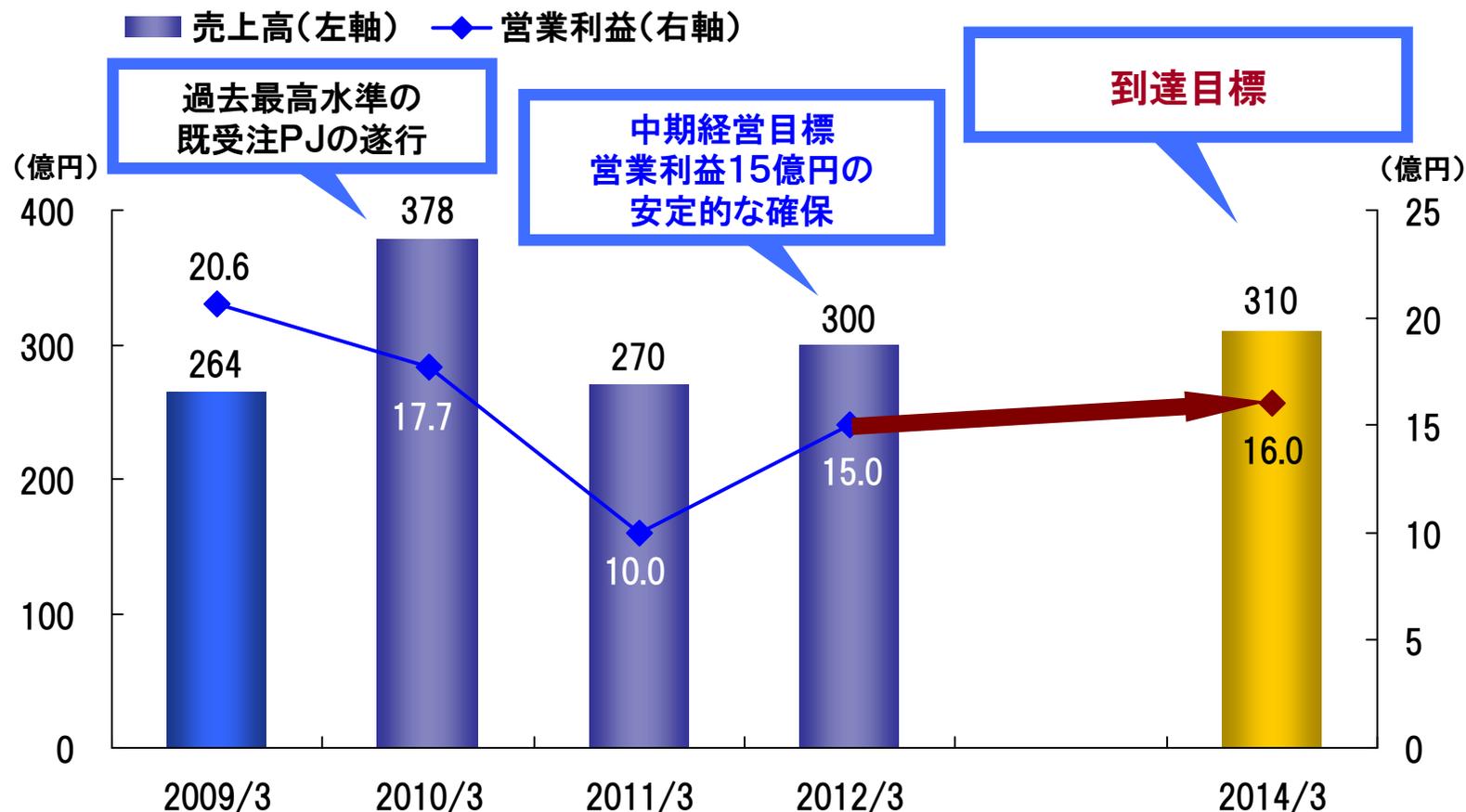
3-2. 機械・プラント事業計画

重点施策



3-3. 機械・プラント事業計画

業績目標



4-1. 物流システム事業計画

事業環境

■ 生 協

・新大型物流センター構築の動きは一段落ではあるが、引続き、配送設備の強化・リプレース需要は堅調。

■ 空 港

・日本及び東南アジアを中心に空港ターミナルの手荷物搬送システム(BHS)や航空貨物ターミナルの航空貨物物流システム(CHS)の需要は底堅い。

■ 卸・小売・量販、3PL

・業界再編やアウトソーシング化に伴う物流拠点統廃合やコスト削減ニーズは一層高まる。

市場動向

3PL市場規模

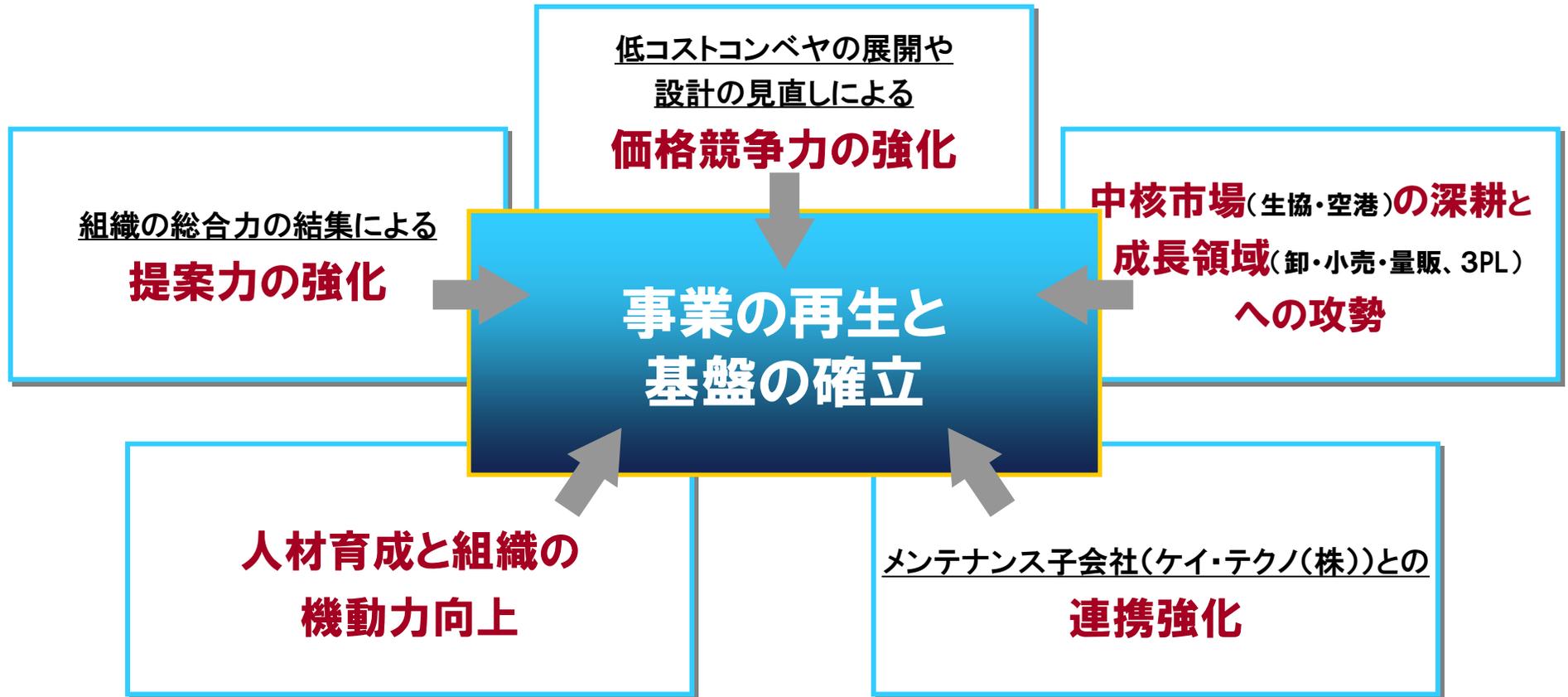


資料出所:LOGI-BIZ(September 2008年)

需要は堅調なもの、競合の参入などにより、価格競争が激化している。

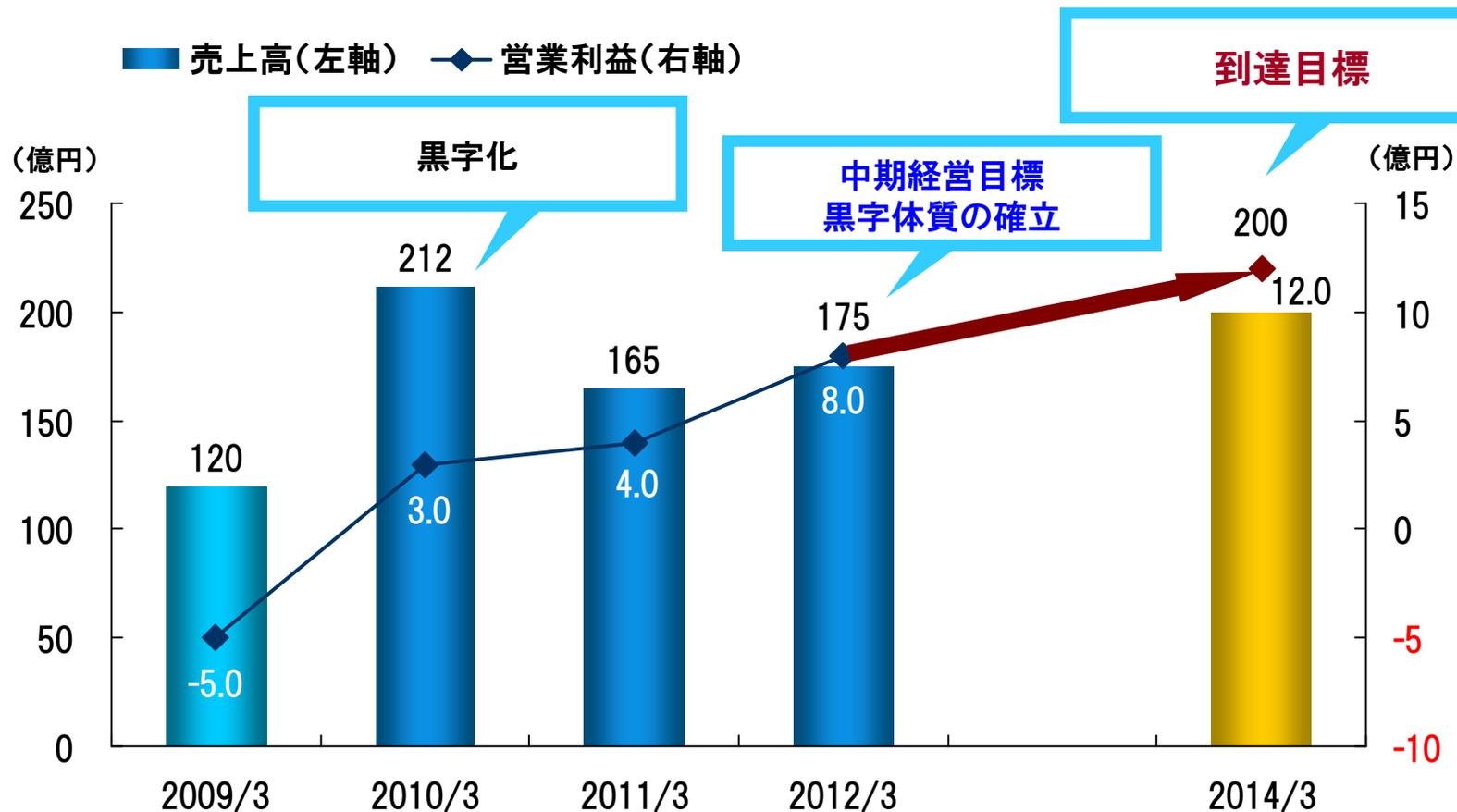
4-2. 物流システム事業計画

重点施策



4-3. 物流システム事業計画

業績目標



5. 連結業績目標

連結業績目標

目標：2012年3月期 営業利益25億円

(単位:億円)

	2009年3月期 (実績)	2010年3月期 (計画)	2011年3月期 (計画)	2012年3月期 (計画)	2014年3月期 (到達目標)
売上高	477	653	495	535	560
営業利益	18.7	21.9	16.0	25.0	30.0
営業利益率	3.9%	3.4%	3.2%	4.7%	5.4%
経常利益	20.6	24.8	20.0	29.0	34.0
当期純利益	30.1	17.8	13.0	20.0	24.0
有利子負債残高	101	110	90	40	35

6. 配当政策等

配当政策等

弊社は、株主各位に対する利益還元を経営の重要課題として位置付け、安定的かつ継続的な配当を行うとともに、長期的な視点での株主還元策として、自己株式の取得にも弾力的に対応する方針であります。

お問い合わせ先

お問い合わせ先

トヨカネツ株式会社 管理本部 経営管理部
TEL:03-5857-3333 FAX:03-5857-3170

本資料に記載されている計画、予測または見通しなど将来に関する事項は、種々の前提に基づき策定したものであり、将来の業績等を保証するものではなく、今後様々な要因により変動する可能性があります。